

書評

二木 立著

保健・医療・福祉複合体—全国調査と将来予測

小山 秀夫（国立医療・病院管理研究所部長）

保健・医療・福祉サービスを一体的に提供しているグループがある。私的病院・老人保健施設・特別養護老人ホームを開設しているグループを3点セットの「複合体」とすると、その数は259グループになる。このような結果が、実証研究の成果として報告されているのが本書である。

このような調査は、これまでにないばかりか、研究すら存在しなかった。各種の施設名簿を手がかりにデータ収集を行い、各グループに資料寄贈依頼の手紙を出し、データを整理し、疑問点があれば電話で問い合わせる。こうした血の出るような努力の結果として、259グループの存在が明らかになる。そして、これらのグループに対してさらに調査を進め、集計し、解析し、それをまとめている。

その結果として明らかになるのは、3点セット以外に、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター、看護・医療技術系・介護福祉士学校を飲み込んで成長する「複合体」の実態である。たった1人の研究者の業績としては、高く評価されるべき内容であるとともに、唯一の複合体データベースの構築がいかに多大の手間が必要かを思い知らせてくれる。

筆者は、医療問題に対する屈指の論客である二木立教授である。「最近のわが国の医療改革の議論や研究をみると、日本医療の現実と歴史を無視した、外

国（特にアメリカ）直輸入の改革論や、思いつきの概念だけを展開する改革論が目につく。本書はこのような安易な風潮に対するアンチテーゼである」と筆者はいう。

歴史と実態の中から真理を探究するのが社会科学者の使命であり、実態なき理論は空虚であるばかりか危険ですらあることを知っている者にとって、本書は干天の慈雨である。

多くの人々が将来に対する漠然とした不安を感じているにもかかわらず、これまでのことや今のことに対して十分に認識していないということもあれば、ひとつの現実を把握することによって、将来に何が起るのかといったことを検討することができる場合もある。

このような意味では、本書はわが国の保健・医療・福祉の現在、過去、未来の第一級の調査研究論文であると思う。

評者は、本書の刊行を指折り数えて待っていた。というのは、研究テーマに強い関心があったばかりか、データベースの内容が日々更新されていることを知りたかったからである。多忙な日常業務をかかえながら、3年間にわたって精進された二木教授に対して、完全に脱帽である。

（A5 頁336 3,600円＋税 1998 医学書院刊）